

「私たちが交換したこと」

事業名：パレスチナ医療支援事業（ガザ地区）

医師：中司峰生

派遣地域：パレスチナガザ地区

派遣期間：2019年12月～2020年2月

ガザ地区におけるパレスチナ赤新月社のアルクツツ病院にて現地の医療者のための診療手順書の作成支援事業に参加してきました。

この写真は筆者（前列左から3人目）の送別会と病院内医療者教育委員会を兼ねた会での集合写真です。私が手にしているのはパレスチナ刺繍による記念品です。皆さんが手にしている冊子は私達日赤の支援により作成している診療手順書の草案冊子です。

今回の私達日赤との支援事業は物資や資金を提供するものではなく、現地の医療従事者にノウハウを提供し、自発的なキャパシティビルディングを期待するものです。このため、「いただいた記念品に対して私達がお渡しできるのはこの診療手順書であり、これらが皆さんと私達との協力の成果物です」、というメッセージをお伝えしてきました。

この写真が撮影された時点では草案のままであった「腹痛の診療手順」ですが、コロナ禍のため私達日赤要員がガザを離れたのち、現地の救急外来部長が中心となって完成させ、院内での生涯教育委員会で承認まで得られたと便りが届きました。

長い紛争や封鎖の歴史のなかで医療の質を改善しようとする機会が得難い現地の医療者にとって決して容易な作業ではないものの、私達がお手伝いしている支援内容が現地の皆さんにとっても大切なものとして受け継いでいただいたことを実感しました。

